

街路樹

授業改善に向けての校内研修の在り方



道徳教育推進のために

～別葉の作成とその実質化に向けて～

「『1人1授業研究で、先生方の指導力の向上に努めました』という話をよく聞くと、これで本当に指導力が向上するのか。」

2月6日、センター職員自主研修における講話の中で、福島大学総合教育研究センター特任教授、丹野学先生が口にした一言です。

文部科学省の「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」には、「教職員の資質能力の向上」が学習指導要領等の実施に必要な諸条件として挙げられ、「これからの教員には、学級経営や児童生徒理解等に必要な力に加え、教科等を越えた『カリキュラム・マネジメント』の実現や『主体的・対話的で深い学び』を実現するための授業改善や教材研究、学習評価の改善・充実などに必要な力等が求められる」と報告されています。それらの力をつけるためには、どうしたらよいでしょうか。子どもたちの学力向上には、「主体的・対話的で深い学び」となる授業改善が必要です。学びのスイッチを入れるためには、子どもたち一人一人が、高い課題意識をもてるように手立てを講じなければなりません。

主体的・対話的で深い学びの実現
（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性に意識を向けながら、自律的に学習に取り組むこと

【対話的な学び】
対話を通して知識や技能の習得、自己の考えを表現すること

【深い学び】
教科等を越えた知識や考え方を応用し、「発見・発見」を体験させ、探究や実践を通して、深い理解や創造的な学びを実現すること

次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ 補足資料(1)

同様に、先生方一人一人が高い課題意識をもてるよう、校内研修にも改善が必要ではないでしょうか。

丹野先生は、これからの「校内研修」の在り方への一提言として、

- 1 キーワードは「授業課題」「授業課題」確認シートの活用等
 - 2 キーパーソンは、間違いなく管理職
- の2つを挙げていました。先生方一人一人が課題意識を持ち、指導力を向上させることができる研修を一緒に目指しませんか。

教育相談しての呟き

～教育相談室～

感情コントロールの苦しさや不登校に関する相談が今年度も多く見られます。これら相談の中で保護者が必ず話題に出すのは動画やゲームそして就寝についての内容です。就寝時刻は、メディアの利用と大きく関係していることが相談からも見えてきています。寝る直前までゲームをしている子どもは、朝食をあまり食べないまま登校している様子も窺え、学校では寝不足のため感情コントロールができていないことが容易に想像されます。

子どもの発育に必要なのは「早寝早起き、外遊び」と強調し、映像メディアに接する1日当たりの目安として「テレビ1時間ゲーム15分、但し毎日はやらない」と提言している小児科医もいます。

メディアによるゲーム等は、脳の後頭葉が働き、記憶や集中力などの重要な働きをする前頭前野が使われない状態が続いてしまうということになります。子どもたちが落ち着いて生活できるように、周りの大人の責任で子どもの生活の改善が必要であると日々考えさせられています。

街路樹103号(28.7.14発行)に「『道徳教育』を全職員で考えよう」と題し、4つのやるべきことを掲載いたしました。各校での取組状況はいかがでしょうか。今回は、別葉について再確認していきましょう。

別葉とは、全体計画の一部を一覧表にして示したものであり、道徳教育と各教科等の特質に応じて行われる道徳性を養う指導をつなぐ役割があります。ですから「目指す子ども像」から自校の課題を踏まえて重点内容項目を決めることが大切になるのです。

例えば、小学2年「親切、思いやり」「規則の尊重」が重点であれば、資料1のように道徳科以外の指導の内容及び時期を明確にします。そしてその後、資料2のように、その他の内容項目に関わる道徳科以下の指導の内容時期を明確にするといでしょう。↓資料1

＜一部抜粋＞いわき市立〇〇小学校 道徳教育の全体計画 別葉(第2学年)

内容	各教科等		生活	
	国語	算数	月	月
親切、思いやり	グループで話し合っ て考えをまとめる	6月		幼児の思いに応じて行動する
感謝				
礼儀				
友情、信頼				
規則の尊重				

(別葉のひな型はHPにアップ中です。) ↓資料2

＜一部抜粋＞いわき市立〇〇小学校 道徳教育の全体計画 別葉(第2学年)

内容	各教科等		生活	
	国語	算数	月	月
親切、思いやり	グループで話し合っ て考えをまとめる	6月		幼児の思いに応じて行動する
感謝				通学路の安全を守る
礼儀	場面に合わせたあい さすをする	4月		地域の人々に適切な言葉遣いで接する
友情、信頼	友だちと相談し合っ て言及する	10月		遊びを楽しむ
規則の尊重				

「もう別葉は作成した。」という学校においては、全教師がカリキュラム・マネジメントに必要な力を身につけ、別葉を評価し、改善していく体制を確立するために、次の2つのことを行ってはいかがでしょうか。

- ①『見える化』・・・全学年の別葉を職員室に掲示し、道徳教育の意図的、計画的な指導を行う。
- ②『記録化』・・・別葉に記載した取組を実践したらマーカーで該当箇所を印をつける。記載していない取組でも効果的な取組は加筆する。(記載されていても効果がなければ削除) 子どもたちの道徳性を高めるために別葉を「全職員」で作成し、職員室に掲示された「別葉」を囲みながら先生方が話し合うことは、道徳科への大きな前進となることでしょう。

平成28年度の街路樹は最終号になります。来年度もご活用いただけるよう努力して参ります。

